



414  
A 488



引紙副議長上奏元老院職制章程  
 増補更正之儀明後五日御評議  
 之申付右寫一筆差回以條通  
 道之有之也  
 八年六月三日

大臣三條實美

大久保嘉通  
 大木系次  
 隈重信  
 三序

大正十一年四月  
 限正  
 限正  
 限正  
 限正

3755





中  
第  
四  
号

別紙職制并事務章程增補更正儀三付  
本院議定書

勅裁ヲ仰キ候為ノ御上奏有之度候也

明治八年五月三十一日 副議長後藤象二郎印

太政大臣三條實美殿

大  
正  
印



本院職制并事務章程增補更正ノ議

右者本年四月廿九日本院ノ章程實際施行ニ便ナラシムル為ノ尚増補更正致度依テハ内議事ヲ起シ可然哉奉伺候處同五月二日允裁ヲ得テ同五月廿九日ヲ以本院會議ヲ起シ尚増補更正決定スル處ノ職制并事務章程別紙ノ通奉仰上裁度仍テ謹テ上奏ス

明治八年五月三十一日



元老院職制并事務章程

副議長後藤象二郎印



元老院職制

議長一頁

**増補**

議場ニ臨ミ議事ヲ整理シ本院ノ章程并ニ條例規則ヲ執行シ凡テ院中ノ事務ヲ整理スルヲ掌ル

副議長一頁

**増補**

議長一次キ院中ノ諸務ヲ掌ルニ議場ニ在テハ議官ト其掌ヲ同フス若シ議長ヲ欠キ或ハ其欠座ニ於テハ直ニ議長ニ代理スルヲ得ル



議官 二員

<sup>増補</sup>本院ノ章程并ニ條例規則ニ從ヒ諸議案ヲ議

スルニ或<sup>レ</sup>之ヲ起草スルヲ掌ル

一 等書記官 一員

<sup>増補</sup>議長ノ令ヲ承ケ議場ニ出テ場中ノ議式ヲ漢

ハ議案ヲ讀ミ議事ヲ記シ上奏文案ヲ作り又

議長ニ屬スル各課事務ヲ督スルヲ掌ル

以上勅任官

<sup>書記</sup>二 等書記官 無定員

議長或ハ議官ニ屬シテ其課務ヲ分任ス

三 等書記官 無定員

四 等書記官 無定員

五 等書記官 無定員

六 等書記官 同シ

以上奏任官

一 等書記生

各課ニ屬シ書記計美等ノ事ヲ掌ル

二 等書記生

三 等書記生

四 等書記生



四等書記生

六等書記生

七等書記生

八等書記生

第一等書記生，如：

以上判任官

大正官

增補

元老院官等俸給表

官等

俸給

議長 年給六千圓

一等 副議長 全 四千八百圓

議官 全 四千二百圓

二等

三等 一等書記官 月給三百五十圓

四等 二等書記官 全 二百五十圓

五等 三等書記官 全 二百圓

文

官



六等	四等書記官	月給	百五十圓
七等	五等書記官	全	百圓
八等	一等書記生	全	七十圓
九等	二等書記生	全	五十圓
十等	三等書記生	全	四十圓
十一等	四等書記生	全	三十圓
十二等	五等書記生	全	二十五圓
十三等	六等書記生	全	廿圓
十四等	七等書記生	全	十五圓
十五等	八等書記生	全	十二圓

元老院章程

第一條

本院<sup>議</sup>之法官ニシテ凡テ新法ノ設立舊法  
ノ改正ヲ議定ス  
<sup>増補</sup>天皇陛下ノ直管スル所ヨリ

第二條

議長一員

天皇陛下議官中ヨリ之ヲ特選ス副議長  
一員ハ議官中ニ於テ公選ス奏シ以テ



命ヲ乞フヘシ

第三條

議官ハ

天皇陛下ノ特選タルヘシ

第四條

議長副議長議官ニ選任セラルル者ハ勅任  
官ニ昇リシ者國家ニ功勞アル者政治法  
律ノ學識アル者ニ限ルヘシ

第五條

議官年齡滿三十歳以上タルヘシ但勅任

官在職二年以上ノ者ハ此限ニ在ラス

増補 第六條

議官ハ六年間其職ニ任ス故ニ自己ノ情願ニ  
出ルカ或ハ犯罪ニ由ニ非レハ年限中免職  
ス可ラス又本人ノ承諾スル所ニ非レハ轉任  
ヲ命スルヘシ

但シ其欠員ヲ補填スルガ為メニ特選セ  
ラレタル者ハ其前官奉職ノ年期ヲ継  
ク者トス

増補 第七條



議官ハ三年毎ニ其統貞ノ半数ヲ改撰ス

但シ最初一度ヲ限り特ニ六年ヲ待テ其半数ヲ改撰スベシ

第八條

議長副議長ハ二年毎ニ改撰スベシ其再任セザル者ハ年限中猶議官ノ列ニ在ルベシ

第九條

議案ハ總テ

天皇陛下ヨリ附與セラレヘシ但シ本院中ノ起草ニ出ル者ハ必先ツ陛下ニ上奏シ准許ヲ得テ而シテ後會議ニ附ス

増補 第十條

本院ノ會議ニ於テ可トスル所ノ議案ハ天皇陛下准許ノ后始テ法章ト為ス其本院ノ否トスル所ノ者ハ法章ト為スヲ得ス

増補 第十一條



本院ノ會議ニ於テ否トスル者ト雖モ  
天皇陛下猶之ヲ採用セント欲スルモハ  
本院ニ命シ再ヒ之ヲ會議セシム若シ本  
院ノ可トスル所ロニシテ陛下ノ准許ヲ得  
サルモハ再議センコトヲ覆奏スルヲ得ヘシ  
其竟ニ可否ヲ異ニスル者ハ俱ニ法章ト  
為スヲ得ス

增補第十二條

凡テ

天皇陛下ニ上奏スルハ議長直チニ之ヲ

上奏ス

增補第十三條

議官ハ課ヲ分ツテ本院ノ事務ヲ擔  
任スヘシ故ニ新法ノ設立ト舊法ノ改正  
ヲ論セス其議案ノ起草ハ必ス當該ノ  
分課ニ於テス或ハ一負アリ他ノ課事ニ  
就テ起草スル所アレハ先ツ之ヲ該課ニ  
付シ其同意ヲ得テ而後之ヲ起草トス

增補第十四條

議官ハ其分課セル當該ノ事務ニ就テ



院省使廳ト往復尋問スルヲ得ル

増補 第十五條

本院ハ院省使廳ノ長官ノ出頭ヲ請求スルヲ得ル

更正 第十六條

本院ハ常ニ行政司法ノ動静及ヒ其長官ノ責任ヲ視察シ若シ法律規則ニ違ヒ或ハ限外ノ権力ヲ使ヒ其他公事ニ就テ犯戾スル者アルキハ之ヲ推問シテ其事由ヲ上奏ス然レモ其黜陟ヲ議スル

トヲ得ス

増補 第十七條

本院ハ國民現有ノ權利ヲ保護シ其乞願并ニ建白ヲ採聽シ其處分ヲ議スルヲ得ル

第十八條

大臣參議ハ何時ニテモ其事由ニ拘ラス本院ニ出テ會議ヲ聽キ其意見ヲ陳スルヲ得ルト雖モ其決議ノ負教中ニ加ラス



第十九條

院者使<sup>原</sup>聽<sup>名者ノ</sup>長官ハ其主任ノ事務ニ  
付何時<sup>何期ノ</sup>モ本院ニ出テ其利害ヲ  
辨説シ其可否ヲ討論シ及ヒ衆議ヲ  
聽テ得ルト雖モ決議ノ負數中ニ加ラス

增補 第二十條

本院ハ各年豫算スル所<sup>ロ</sup>ノ政府會  
計表ニ就ヒテ費額及ヒ入額ヲ檢閲  
シテ其當否ヲ議定ス

增補 第二十一條

土地租稅教育宗教ニ関スル法律及ヒ  
紙幣製造ノ負數内外國債ノ増減等  
ノ事件ハ本院及ヒ地方官會議ノ協同  
一致ニ非レハ輒チ之ヲ  
天皇陛下ニ上奏スルヲ得ス

增補 第二十二條

本院ノ會議ハ衆庶ノ來聽ヲ許ス然レ  
氏議長善クハ議官五人以上之ヲ求ム  
ル内ハ隱密ノ會議ヲ為スヲ得可  
シ



第二十三條

書記官數員ヲ置キ院中諸事務ヲ分任セシムヘシ

第二十四條

本院書記官ノ進退ハ議長之ヲ具狀シテ人中シキフヘシ

増補 第二十五條

本院議事ノ條例及ヒ院内ノ規則ヲ設立改正スルハ衆議ノ上處分シテ后之ヲ奏聞ス